

船舶事故等調査報告書

平成21年5月28日

運輸安全委員会(海事専門部会)議決

| | | |
|--------------------------------------|--|---|
| 事故等番号 | 2008横第63号 | |
| 事故等名 | 油送船第二十八鶴菱丸運航阻害 | |
| 発生年月日時刻 | 平成20年10月12日15時07分ごろ | |
| 発生場所 | 観音埼灯台から真方位090° 1.4海里付近 (北緯35° 15.4'、東経139° 46.4') | |
| 事故等調査の経過 | 調査の概要:平成20年11月10日横浜・地方事故調査官が海難報告書を入力し、船舶所有者から損傷状況等を口述聴取、11月21日船舶所有者から機関日誌写を入力し、12月8日船舶検査手帳写、船舶件名表写、修理報告書、整備関係書類を入力し、12月10日担当機関士から運転状況等を口述聴取 原因関係者からの意見聴取:意見なし | |
| 事実情報 船種・船名・総トン数 船舶番号 船舶所有者等 | 油送船 第二十八鶴菱丸 749トン 136438 株式会社丸徳汽船 | |
| 乗組員等に関する情報 | 担当機関士 四級海技士(機関) | |
| 負傷者 | なし | |
| 損傷 | 逆転機後進クラッチスチールプレート破損、摩擦プレート、後進クラッチリング及び支持体の損傷 | |
| 事故等の経過 | 本船は、平成17年第2回定期検査入渠工事において、逆転機の開放整備を行い、各部を点検して異常がなく、スチール板、摩擦板は継続使用とされ、潤滑油の全量新替えを行い、潤滑油冷却器を陸揚げ分解開放掃除した。 千葉県千葉港を発し、福島県小名浜港に向けて航行中、平成20年10月12日15時07分ごろ、逆転機の油圧低下警報が発生し、油圧が0kgf/cm ² となっていたので、15時10分ごろ主機を停止した。 逆転機潤滑油こし器を掃除のうえ、逆転機の予備潤滑油ポンプを運転すれば油圧は回復するものの、直結ポンプ単独運転とすると油圧が徐々に低下したため、こし器を再度開放したところ、潤滑油の汚れと金属粉を認めた。その後も逆転機クラッチの嵌合・離脱及びこし器の開放掃除を繰り返したが、直結ポンプ単独では油圧が短時間で低下し、維持できなかった。 翌13日05時30分から神奈川県横須賀港に仮泊し、翌14日逆転機の短時間使用で横須賀港沖に自力で着岸したのち、製造業者が逆転機の陸揚げ修理を実施した。 | |
| 分析 | 気象・海象の関与 乗組員等の関与 船体・機関等の関与 判明した事項の解析 | なし あり あり 逆転機の後進クラッチ内部に異物をかみ込み、後進スチールプレートが破損した可能性があると考えられる。 |
| 原因 | 本インシデントは、逆転機の後進クラッチ内部に異物をかみ込んだため、後進スチールプレートが損傷したことにより発生した可能性があると考えられる。 | |
| その他の事項 | なし | |